

公認会計士

平林亮子著 Ryoko Hirabayashi

# 数字はウソをつく

Forest  
**2545**  
Shinsyo

## ◎はじめに

昨今、私が強く感じていること。それは、さまざまな事柄が生じる原因を、景気のせいにする傾向があるということです。「不景気だからモノが売れない…」「景気さえ上向けば…」と、悪いことは何でも不景気のせいにされているような気がします。

でも、少し冷静になって考えてみてほしいのです。

このような状況でも、過去最高の利益を出している企業はいくつでもあります。

**モノが売れないのは、本当に不景気だからなのでしょうか？**

原因を突き詰めて分析すれば、その奥に潜んでいる「本当の理由」が、ひょっとしたら見つかるかもしれません。

そう考えると、自分の中に「物事を冷静に分析する視点」を持つことは、今起こっていることの本質を見抜くため、世の中に氾濫する情報はんらんに振り回されないために、必要不可欠ではないでしょうか？

本書のタイトルは、『数字はウソをつく』です。例えば、銀行口座に10億円を持ってい

る人がいたとしましょう。

あなたはその人の預金通帳を見て、いったいどう思うでしょうか？

おそらく「この人はお金持ちだな」と思うのではないのでしょうか？

10億円は、誰にとつても10億円です。この客観的事実は変わりようがありません。

しかし、**もしそのお金がすべて借金だとしたら**…。

この人は本当にお金持ちだと言えるのでしょうか？

このように表面上の「10億円」という数字だけを見ていては分からないことが、世の中、特にビジネスの世界にはたくさんあります。

たしかに、「10億円」という**数字は客観的**です。

しかし、数字自体が客観的でも、その読み方によって、受け取り方は変わってしまいます。数字自体がウソをつくわけではなく、**読み手の力量によって、その意味合いが大きく変わってしまう**のです。

ここで挙げたのはあくまで一例ですが、数字を見たときに「このお金は自分のものかな、それとも借金かな？」と考えられるかどうか？ この能力が大切ではないのでしょうか？

本書は、そうした「数字を読み込む力」をゼロから、しかもスピーディに養成することを目的に作りました。

「そういう意味では『数字はウソをつく』というタイトルよりも、『数字の本質を見抜く力が最速で身につく本』といったほうが、より適切かもしれません。

では、自分の中の「冷静に分析する視点」になりうるもの、「数字を客観的に読み込むツール」として使えるのは、いったい何でしょうか？

そのツールの1つが、**会計**です。会計と聞くと、「経理の人以外はいらないでしょ？」と思うかもしれませんが、実はそんなことはありません。

会計は「**経済活動をどのように記録して集計するか**」というルール、そして考え方です。会計を知れば、1つの数字が持つ「**本当の意味**」が分かります。そして、そのもとにある経済活動が見えてきます。

数字を通じて、「**今、会社で何が起きているのか？**」「**今、世の中で何が起きているのか？**」を冷静に理解できるようになるのです。

そう考えると、会計は経理以外の人にも必要不可欠なツールではないでしょうか？

「ビジネスパーソンとして、会計の知識が必要なことは何となく分かった。でも、そんなに勉強する時間がないし、だいいち会計って難しいでしょ？」

そう思われるかもしれませんが、大丈夫。

専門家になるのであれば話は別ですが、それ以外のビジネスパーソンにそこまで込み入った知識は必要ありません。

本書は必要最低限、これだけは知っておいてほしいというテーマに絞って執筆いたしました。また、小説仕立てのストーリーに、クイズを織り交ぜ、初心者でもスイスイ読めるように工夫しました。

数字が苦手でも、現時点で会計の知識がゼロでも、ミステリー小説を読むような気分で、楽しみながら読んでいただけたと思います。

分からないところが出てきても、あまり気にせず、読み進めてみてください。少しずつ分かるようになるはずですよ。

数字は、それ自体は客観的な存在です。

でも、読み手であるあなたにそれを読み解く視点がなければ、その意味を誤解してしまうかもしれません。そうなれば、ビジネスパーソンとしてのあなたの成長を阻害するだけでなく、致命傷にもなりかねません。

**数字の読み方を知らないと、いったいどんなことが起こるのか？**

まずは、プロローグから読んでみてくださいね。

# 目次

はじめに……………3

## 数字はウソをつく

なぜ、会計はビジネスに役立つのか？

2人のビジネス人生を分けたものとは？……………14／知は力なり……………14

ビジネスパーソンにとっての「成功への投資」とは？……………19

なぜ、会計はビジネスに役立つのか？……………22／数字はこうしてウソをつく……………26

武器としての数字……………34

## プロローグ

## 1章

### なぜ、異なる業種の会社を買収するのか？

「M&Aの謎を解く！」

私（平林）と佐藤さんの出会い……………40／業績の良し悪しはどう判断するのか？……………42

突然の提案……………50／なぜ、M&Aをするのか？……………51／M&Aとは？……………55

会社の値段はいくら？……………60／買収価格の謎……………62

「インカムゲイン」とは？……………64／企業価値を測る方法……………68

## なぜ、赤字企業の株価が上がるのか？

〈株式投資の謎を解く！〉

- インサイダー情報？……74 / 損益計算書で赤字か、黒字かが分かる！……76
- 会社の価値は、貸借対照表で分かる！……82
- いまだ残る謎。なぜ、豊洲工業は買いたのか？……86
- 土地の値段と株価の関係とは？……89 / 株価上昇の秘密……92
- インサイダー取引発生！……95

## なぜ、赤字でも会社は倒産しないのか？

〈赤字企業の謎を解く！〉

- 初めての赤字決算……100 / 会社が倒産すること……104
- 利益とキャッシュの関係とは？……107 / 疑う銀行員……113



## なぜ、社長は粉飾決算をするのか？

〈粉飾決算の謎を解く！〉

- 悲劇の始まり……………126／野村社長に何が起こったのか？……………127／裏金疑惑浮上……………128  
 声を荒らげる社長……………132／第2の疑惑……………134／典型的な粉飾の手法とは？……………138  
 第3の疑惑……………140／なぜ、社長は粉飾をするのか？……………144／粉飾決算の結末……………146

## 財務3表が分かる！「ミニ会計講座」

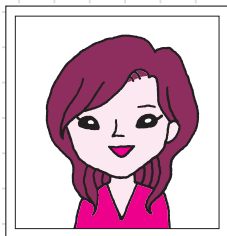
〈決算書の謎を解く！〉

- あれから、僕（田中）は……………150／「貸借対照表」とは？……………150／「損益計算書」とは？……………156  
 「キャッシュフロー計算書」とは？……………164／次のステージへ……………174

最後に一言……………175

ストーリー中に登場する

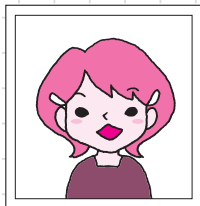
## 人物紹介



### 平林亮子

(ひらばやし りょうこ)

公認会計士。本書の主人公。  
性格は大らかで、正義感が強い。



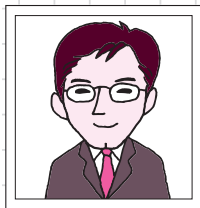
### 白石真由

(しらishi まゆ)  
平林の助手。公認会計士を目指し勉強中。姉の恵は、佐藤、田中と同級生。



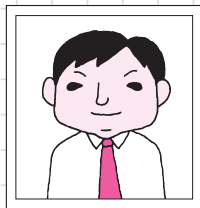
### 丸山勝

(まるやま まさる)  
地域密着型スーパー、SAKAEY A社長。負けず嫌い。お金儲けが好き。



### 佐藤智之

(さとう ともゆき)  
株式会社アールデジタル取締役。  
成功意識が強く、勉強熱心なビジネスマン。



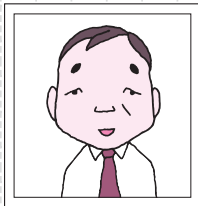
### 田中翔太

(たなか しょうた)  
大手電機メーカー三芝の主任。  
佐藤の同級生。同窓会で会計の勉強を決意。



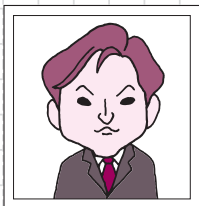
**郷田庄吉** (ごうだ しょうきち)

IT機器商社、株式会社GODA社長。郷田商店を一代で大きくした剛腕。



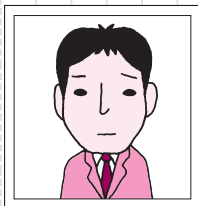
**小谷健太** (こたに けんた)

株式会社GODAの経理部長。経理の知識や経験は豊富だが、気が弱い。



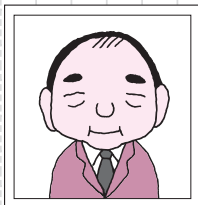
**野村大吾** (のむら だいご)

株式会社エヌツーカンパニー社長。本来は非常に真面目な性格だが…。



**中津良介** (なかつ りょうすけ)

株式会社エヌツーカンパニーの副社長。マイペースな性格で、しつかり者。



**榛名正夫** (はるな まさお)

和泉堂書房社長。経営は苦しいが、良質な本を作っている。温かな編集者。

※本書の物語はすべてフィクションです。また、会計制度等につきましては執筆時点の最新の内容に基づいておりますが、その正確性を保証するものではありません。